

平成25年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 クリーク・アンド・リバー社
コード番号 4763 URL <http://www.cri.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井川 幸広
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 福田 浩幸

TEL 03-4550-0011

四半期報告書提出予定日 平成25年1月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第3四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第3四半期	14,174	20.3	920	50.7	965	46.0	445	63.3
24年2月期第3四半期	11,785	13.0	610	205.6	661	216.2	272	467.8

(注) 包括利益 25年2月期第3四半期 534百万円 (63.9%) 24年2月期第3四半期 326百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第3四半期	2,070.83	—
24年2月期第3四半期	1,267.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第3四半期	7,055	4,027	52.1
24年2月期	5,957	3,613	54.6

(参考) 自己資本 25年2月期第3四半期 3,674百万円 24年2月期 3,255百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	0.00	—	200.00	200.00
25年2月期	—	0.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	400.00	400.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成25年2月期の連結業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,000	14.0	950	40.6	1,000	37.2	450	77.2	2,090.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年2月期3Q	226,090 株	24年2月期	226,090 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

25年2月期3Q	10,809 株	24年2月期	10,809 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年2月期3Q	215,281 株	24年2月期3Q	215,281 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	4
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
(3) 継続企業の前提に関する注記	11
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(5) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の復興需要等を背景として、緩やかな回復の動きが見られた一方で、不安定な政局、世界経済及びアジア諸国を取り巻く環境への先行き懸念、近隣諸国との関係悪化等、予断を許さない状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは「人の能力により社会に貢献する」ことを理念として掲げ、事業を運営してまいりました。当社グループのネットワークする、クリエイター、医師、ITエンジニア、弁護士、会計士等、専門的な知識を有するプロフェッショナルへのニーズは旺盛で、全セグメントにて増収増益を達成する等、事業が好調に推移いたしました。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高14,174百万円（前年同期比120.3%）、営業利益920百万円（前年同期比150.7%）、経常利益965百万円（前年同期比146.0%）、四半期純利益は445百万円（前年同期比163.3%）となり、全ての項目にて第3四半期連結累計期間において過去最高の業績となりました。

報告セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① クリエイティブ分野（日本）

クリエイティブ分野（日本）は、グループの中核となる当社が、映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等のクリエイティブ領域で活躍するクリエイターを対象としたエージェンシー事業を展開しております。

映像・TV分野においては、TV番組の内制化傾向によるニーズ増加機会を捉え、当社独自のリクルーティングによる映像専門社員の活躍により、TV業界における存在感を高め、コアクライアントであるTV局の多様なニーズに対応しております。

ゲーム分野においては、コンシューマー、アミューズメント、ソーシャル分野のクリエイター需要増に対し、優秀なクリエイターの発掘、確保、育成に努めております。さらに、自社開発によるソーシャルゲームを3つのプラットフォームに対して配信し、順次新タイトルのリリースを行なっております。

一方、一般事業法人関連では、Webサイトを用いたプロモーション等の需要増に対応し、セミナー・イベントを通じたWebクリエイターの育成に努めるとともに、大手広告代理店等からの受注の増加が業績に寄与しております。

電子書籍関連においては、専用端末の発売を受け高まる市場環境を背景に、電子書籍化の制作受託からプラットフォームへの書籍の取次まで、多角的なサービスを展開し、業容の拡大をはかっております。

一方、アジアマーケットへの取組みとしては、日本、中国、台湾、韓国の出版社と出版物ライセンスを仲介する出版エージェンシー事業、北京視易購伝媒科技有限公司との業務提携によるTV通販事業を推進しております。尖閣諸島国有化に端を発した日中間の問題により一部に事業の遅れが生じたものの、徐々に回復の兆しが見られております。

これらの結果、クリエイティブ分野（日本）は売上高8,321百万円（前年同期比111.6%）、営業利益500百万円（前年同期比140.1%）となりました。

② クリエイティブ分野（韓国）

クリエイティブ分野（韓国）は、連結子会社CREEK & RIVER KOREA Co.,Ltd.が、クリエイティブ分野（日本）と同様のビジネスモデルを韓国にて展開しております。

韓国における既存のTV局での圧倒的なシェアを誇り、クリエイターの派遣事業が順調に伸張しております。また、77名のトップクリエイターネットワークを活かし、クリエイティブ分野（日本）と協働による出版エージェンシー事業を推進し、日本の著名経営者による著書の韓国における翻訳出版版權を仲介する等、収益の多様化をはかっております。

これらの結果、クリエイティブ分野（韓国）は売上高1,621百万円（前年同期比108.1%）、営業利益30百万円（前年同期比118.4%）となりました。

③ 医療分野

医療分野は、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社が、「民間医局」をコンセプトにドクター・エージェンシー事業を展開しております。

全国各地での慢性的な医師不足、地域的偏在、診療科の偏在を背景に、各医療機関からの医師へのニーズは高く、医師の紹介事業が順調に伸張しております。

2012年7月には、大宮市に北関東支社を開設し、営業基盤を拡充することによりさらなるサービス向上、営業強化をはかり、約60,000人の医師・研修医、8,000を超える医療機関が登録する国内最大のドクターネットワークの拡充をはかってまいります。

これらの結果、医療分野は売上高2,104百万円（前年同期比120.2%）、営業利益363百万円（前年同期比121.3%）となりました。なお、株式会社メディカル・プリンシプル社は、決算日を10月31日に変更しております。

④ その他の事業

ITエンジニアのエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社リーディング・エッジ社では、業務支援開発案件の受託が売上高の拡大に寄与した一方、Android技術者の育成等により、市場ニーズに合わせたエンジニアの輩出に注力しております。

法曹分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社C&Rリーガル・エージェンシー社は、弁護士の登録者数が5,000名に達し、弁護士の紹介事業が拡大しております。

会計分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社ジャスネットコミュニケーションズ株式会社では、会計・経理人材の派遣・紹介事業が順調に拡大しております。

これらの結果、その他の事業は売上高2,126百万円（前年同期比196.7%）、営業利益19百万円（前年同期は営業損失79百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末より1,078百万円増加し5,787百万円となりました。これは、主として現金及び預金の減少240百万円、受取手形及び売掛金の増加359百万円、仕掛品の増加583百万円及び短期貸付金の増加290百万円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末より19百万円増加し1,267百万円となりました。これは、主として有形固定資産の増加31百万円、無形固定資産の減少83百万円、投資有価証券の増加18百万円及び保険積立金の増加51百万円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末より701百万円増加し2,938百万円となりました。これは、主として未払費用の増加125百万円及び前受金の増加564百万円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末より17百万円減少し89百万円となりました。これは、主として退職給付引当金の減少16百万円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末より413百万円増加し4,027百万円となりました。これは、主として利益剰余金の増加402百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、当社グループ全体で事業が好調に推移し、平成25年2月期第3四半期連結累計期間において、利益項目における通期連結業績予想を上回ることとなったため、通期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、平成25年1月10日に公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

1 株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利の行使が確定するストック・オプションについて、権利行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、この変更による影響はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,465,442	2,225,152
受取手形及び売掛金	1,917,431	2,277,218
仕掛品	50,562	634,137
貯蔵品	1,840	2,009
その他	328,523	705,811
貸倒引当金	△54,413	△56,334
流動資産合計	4,709,386	5,787,995
固定資産		
有形固定資産	186,883	218,683
無形固定資産		
のれん	153,349	102,232
ソフトウェア	177,729	143,662
その他	3,215	5,392
無形固定資産合計	334,294	251,287
投資その他の資産		
敷金及び保証金	445,411	444,952
その他	291,931	364,960
貸倒引当金	△10,026	△12,123
投資その他の資産合計	727,316	797,790
固定資産合計	1,248,494	1,267,761
資産合計	5,957,881	7,055,756
負債の部		
流動負債		
営業未払金	753,058	800,527
短期借入金	350,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	48,800	—
未払法人税等	287,689	299,253
賞与引当金	79,378	151,515
保証履行引当金	3,966	7,117
その他	713,586	1,279,689
流動負債合計	2,236,479	2,938,103
固定負債		
退職給付引当金	102,535	85,764
その他	4,879	3,940
固定負債合計	107,414	89,705
負債合計	2,343,894	3,027,809

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,035,594	1,035,594
資本剰余金	1,874,684	1,874,684
利益剰余金	649,528	1,052,283
自己株式	△246,809	△246,809
株主資本合計	3,312,997	3,715,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,085	11,073
為替換算調整勘定	△56,158	△52,344
その他の包括利益累計額合計	△57,244	△41,270
新株予約権	20,485	18,973
少数株主持分	337,747	334,492
純資産合計	3,613,986	4,027,947
負債純資産合計	5,957,881	7,055,756

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
売上高	11,785,751	14,174,640
売上原価	7,864,427	9,483,857
売上総利益	3,921,323	4,690,783
販売費及び一般管理費	3,310,718	3,770,765
営業利益	610,605	920,017
営業外収益		
受取利息	5,363	4,705
受取配当金	811	144
保険解約返戻金	50,334	46,488
その他	2,807	2,850
営業外収益合計	59,317	54,188
営業外費用		
支払利息	1,868	1,699
寄付金	95	—
持分法による投資損失	5,807	4,998
その他	561	1,910
営業外費用合計	8,332	8,608
経常利益	661,590	965,597
特別利益		
貸倒引当金戻入額	208	—
保証履行引当金戻入額	370	—
固定資産売却益	—	141
新株予約権戻入益	—	10,998
負ののれん発生益	19,199	34,250
特別利益合計	19,777	45,390
特別損失		
固定資産除却損	1,930	2,931
投資有価証券評価損	51,377	—
関係会社株式売却損	—	134
会員権評価損	—	800
事務所移転関連損失	12,756	36,309
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,770	—
抱合せ株式消滅差損	4,594	—
特別損失合計	72,429	40,175
税金等調整前四半期純利益	608,939	970,812
法人税、住民税及び事業税	277,501	455,178
法人税等調整額	3,842	△2,614
法人税等合計	281,344	452,564
少数株主損益調整前四半期純利益	327,595	518,248
少数株主利益	54,628	72,437
四半期純利益	272,966	445,810

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	327,595	518,248
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,043	11,956
為替換算調整勘定	△14,584	4,288
その他の包括利益合計	△1,541	16,245
四半期包括利益	326,053	534,493
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	273,308	461,797
少数株主に係る四半期包括利益	52,744	72,695

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野（日本）	クリエイティブ 分野（韓国）	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,454,198	1,499,914	1,750,582	10,704,696	1,081,055	11,785,751	—	11,785,751
セグメント間の内部 売上高又は振替高	30,557	343	413	31,313	60,528	91,842	(91,842)	—
計	7,484,756	1,500,257	1,750,995	10,736,009	1,141,584	11,877,593	(91,842)	11,785,751
セグメント利益又は セグメント損失（△）	357,033	25,807	299,305	682,146	△79,311	602,835	7,769	610,605

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額7,769千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「医療分野」において、平成23年8月22日付で連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社の株式を追加取得いたしました。これにより、負ののれん19,199千円が発生し、当第3四半期連結累計期間において特別利益（負ののれん発生益）に計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野（日本）	クリエイティブ 分野（韓国）	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,321,476	1,621,799	2,104,915	12,048,190	2,126,449	14,174,640	—	14,174,640
セグメント間の内部 売上高又は振替高	24,998	—	—	24,998	45,715	70,714	(70,714)	—
計	8,346,474	1,621,799	2,104,915	12,073,189	2,172,165	14,245,354	(70,714)	14,174,640
セグメント利益	500,352	30,565	363,179	894,098	19,300	913,398	6,619	920,017

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額6,619千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「医療分野」において、平成24年10月31日付で連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社の株式を追加取得いたしました。これにより、負ののれん34,250千円が発生し、当第3四半期連結累計期間において特別利益（負ののれん発生益）に計上しております。